

2021年3月期第3四半期決算説明資料

発表日時：2021年2月10日（水）17:00（今回、説明会の開催はございません）

【2021年3月期第3四半期連結決算の概要】

- まず、パワーポイントのスライド1をご覧ください。
- 今回の決算のポイントです。売上高は、競争激化や新型コロナウイルス感染拡大の影響で東京電力グループの販売電力量が減少したことなどにより、減収となりました。
- また、経常損益は、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減に努めたものの、売上高が減少したことなどにより、減益となりました。
- さらに、四半期純損益についても、前年度の特別利益の反動減などにより、減益となりました。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比11.5%減の4兆1,039億円と減収、経常損益も、24.0%減の2,355億円と減益となり、特別損益を加えた四半期純損益は、70%減の1,304億円と減益となりました。

【セグメント別のポイント】

- スライド3と4では、各セグメント別の業績をご説明いたします。
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。
- 売上高は、東京電力エナジーパートナーへの卸電力販売の減少などにより、前年同期比888億円減の3,647億円、経常損益は、それに加え基幹事業会社からの受取配当金が減少したことなどから、1,141億円減の70億円となりました。
- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- 経常損益は、JERAにおいて燃料費調整制度の期ずれ影響や発電事業の収支が好転したことなどにより、前年同期比210億円増の834億円となりました。
- 続いて、東京電力パワーグリッドの業績です。
- 売上高は、前年同期と概ね変動無く、1兆2,924億円となりました。
- 経常損益は、新型コロナウイルス感染拡大によるエリア需要減があったものの、減価償却費の減少などにより、82億円増の1,836億円となりました。

- 続いて、東京電力エナジーパートナーの業績です。
- 売上高は、競争激化や新型コロナウイルス感染拡大の影響などで、販売電力量が減少したことから、前年同期比5,978億円減の3兆6,143億円となりました。
- 経常損益は、売上高が減少したことなどにより、466億円減の79億円となりました。

- 最後に、東京電力リニューアブルパワーの業績です。
- 売上高は、東京電力エナジーパートナーへの卸電力販売の増加などにより、前年同期比156億円増の1,099億円、経常損益は、169億円増の441億円となりました。
- なお、連結およびセグメント別の前年同期比較の資料を参考として添付しております。

【連結特別損益の概要】

- 連結特別損益については、スライド5をご覧ください。
- 特別損失は、原子力損害賠償費として前期から277億円増額の、954億円を計上いたしました。
- これにより、特別損益は954億円の損失となり、特別利益を計上した前年同期と比べ、2,573億円の減となりました。

【連結財政状態の概要】

- スライド6をご覧ください。
- 自己資本比率は、前年度末より0.9ポイント改善し25.2%となりました。
- これは、当期純利益が引き続き黒字であったことで純資産残高が増加したなどによるものです。

【2021年3月期業績予想】

- 最後に、2021年3月期の業績予想については、新型コロナウイルス感染拡大や、今冬の全国的な電力需給ひっ迫が当社事業に与える影響の範囲や大きさなどについて、更に慎重に見極める必要があり、取まとまり次第、特別事業計画（新々総特）の改訂時にお示しすることを考えております。

【参考資料（スライド7以降）、補足資料（スライド15以降）】

- スライド7以降は参考資料および補足資料です。

以上